

## [073]英語英文学論叢表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/6779644>

---

出版情報：英語英文学論叢. 73, 2023-03-17. Department of English, Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University

バージョン：

権利関係：

# 高橋勤先生のご退職に寄せて

田中俊也

高橋勤教授が令和5年（2023年）3月31日をもって定年を迎えられ、九州大学大学院言語文化研究院を退職されます。4月からの新たな年度には言文英語科の職場から高橋先生がおられなくなることを思うと寂しい限りですが、長年に渡って研究・教育に惜しめない努力を注いでこられた高橋先生のご退職後の弥栄を祈念して記すことにします。

高橋先生は広島大学教育学部をご卒業後、九州大学大学院文学研究科修士課程を修了されています。その後、同大学院同研究科博士課程に進学されたのと並行して、アメリカ合衆国ペンシルヴァニア州立大学比較文学研究科にも進学され、平成3年（1991年）8月にはペンシルヴァニア州立大学より比較文学の分野で Doctor of Philosophy (Ph.D.) の学位を取得されています。昭和63年（1988年）10月には、今日の言語文化研究院の前身である九州大学言語文化部に専任講師として採用されました。その後、助教授（准教授）、教授へと昇進されて、34年6ヶ月の長きに渡り、九大言文の専任教員として勤務されました。

この年月の間、高橋先生は九州大学内外に多くの功績を残しておられます。研究面では、19世紀アメリカ文学、特にヘンリー・ソローの思想および作品研究をご専門とされています。先生から最近うかがったところでは、ほぼ一貫して「自然」がテーマであり、その関係で近年では、ソローにみられるエコロジー思想の観点から、日本の環境思想や環境文学に関する考察も手掛けるようになったということです。これまでに2点の単著研究書、6点の共編研究書を出版し、31点の研究論文を公刊されています。先生の研究論文は、日本ソロー学会発行の『ヘンリー・ソロー研究論集』や日本アメリカ文学学会発行の『アメリカ文学研究』に掲載されたもののみならず、ペンシルヴァニア大学出版局（University of Pennsylvania Press）発行の *J19: The Journal of Nineteenth Century Americanists* のような国際的に権威ある専門誌に掲載されたものもあり、先生のご研究は全国的なレベルのみならず、国際的なレベルの評価も受けています。

さらに、先生は研究成果を国内外の学会で精力的に発表され、全部で43回の発表のうち、招待発表、招待講演、招待パネリストなどを幾度も務めてられました。

これまでに採択された科学研究費補助金によるプロジェクトとして、研究代表者として7つの研究課題に、そして研究分担者としては4つの研究課題に取り組んでられました。これらによって、学会での口頭発表、論文、著書など、多くの研究成果が生み出されることとなりました。更に高橋先生は、これまでに3つの年度に渡って日本学術振興会科学研究費委員会専門委員を務められ、科学研究費補助金申請の審査にも当たられました。

学会運営に関する貢献としては、文学・環境学会副代表、日本英文学会九州支部編集委員、日本英文学会『英文学研究』編集委員、同編集委員長、日本アメリカ文学会『アメリカ文学』本部編集委員、日本アメリカ文学会九州支部支部長、日本ソロー学会会長という重要な役職を務め、その責務を果たしてられました。

社会活動としては、平成3年度(1991年度)九州大学公開講座「ヨーロッパの深層と現実」において「他者としてのヨーロッパ—アメリカ文学の視点から」と題する講義を行い、その後複数年に渡り、短期留学プログラム(JTW program)において比較文学(comparative literature)の講義を英語で行い、放送大学でも講義を行ったことが挙げられます。これらに加えて、私自身の記憶から申し上げるならば、私たちの研究室が六本松キャンパスにあった時分から(つまり伊都移転前から)、先生は高大連携英語教育懇話会を開催する必要性を唱え、懇話会例年開催の実現に大きく貢献されたことが思い出されます。

九州大学の運営の面では、国際交流専門委員会委員、留学生センター委員会委員、21世紀プログラム専門委員会委員、21世紀プログラム主導教員などの要職を歴任されています。

教育活動としては、九州大学の英語教育に尽力し、学生の英語運用能力向上に貢献されました。教育熱心な先生でした。最近私は高橋先生から直接、「私はこの15年ほど英語教員であることを天職と思って授業をしてきました」というお言葉をうかがいました。さもあらんと思います。ただ、この後に「まずい授業もたくさんしましたが…」と続いたのが、高橋先生の謙虚なお人柄によるものであり、憎めないところでもあると感

じます。さらに先生は、九州大学21世紀プログラムの運営にも長年寄与し、比較社会文化学府や人間環境学府における学府（大学院）教育にも長年に渡って従事されました。

高橋先生に初めてお目にかかった時のことを、今でもはっきりと覚えています。平成3年（1991年）4月、前期の授業が始まろうとする頃、あるいは始まって間もない頃のことでした。新任の私は英語科の先生方銘々にあいさつを終えて、残りは高橋先生だけとなっていました。当時高橋先生はアメリカの大学から Ph.D. を取得するために休みの時は渡米しているということを、年配の先生からうかがっていました。六本松キャンパス1号館5階にあった英語科の共通室に入った際、高橋先生がひとりでおられました。この青年が高橋勤先生だと直観し、その直観に間違いないと確信して、「高橋先生、新任の田中と申します」と話しかけました。すると、「ああ、田中さん？」と親しく返答してくださいました。当時の私には、アメリカの大学で間もなく Ph.D. を取得しようとしている高橋先生が、きらきら輝いて見えたものでした。言葉を交していただき、光栄だと思いました。その後いつしか、年がさほど離れていないということもあって、高橋さんとお呼びさせていただくことになりました。

それから、30年以上の月日があっという間に経ってしまいました。自分自身に厳しく、常に研究・教育への情熱を失わず、時には辛口のコメントを発するものの、謙虚に笑みを浮かべて優しいお気持ちを示される高橋さんのお姿を拝見しながら、過ごしてきたように思います。また、これまで様々な場面で、幾度となくさりげなく助けていただきました。感謝申し上げます。

高橋さん、これからもどうか、ご健勝にてご活躍ください。趣味とされている釣りにも、精を出されることでしょう。また、行きつけの寿司屋さんで美味しいお酒を楽しむことも、続けられることと思います。今後益々のご発展を、切にお祈りしています。



## 高橋勤教授 略歴・業績目録

### 略 歴

昭和33年2月7日福岡県生まれ

#### 〈学歴〉

- 昭和56年3月 広島大学教育学部卒業
- 昭和59年3月 九州大学大学院文学研究科修士課程修了
- 昭和60年8月 米国ペンシルヴァニア州立大学大学院比較文学科博士課程入学  
(フルブライト奨学生として)
- 昭和63年9月 九州大学大学院文学研究科博士課程単位取得退学
- 平成3年8月 米国ペンシルヴァニア州立大学大学院比較文学科博士課程修了 (Ph.D.)

#### 〈職歴〉

- 昭和63年10月 九州大学言語文化部講師
- 平成元年4月 九州大学言語文化部助教授
- 平成8年4月 九州大学大学院比較社会文化研究科兼担 (平成12年3月迄)
- 平成12年4月 九州大学大学院言語文化研究院助教授に配置換え。
- 平成19年4月 九州大学大学院言語文化研究院准教授に名称換え。
- 平成22年5月 九州大学大学院比較社会文化研究科担当 (平成29年3月迄)

平成23年1月 九州大学大学院言語文化研究院教授  
平成30年4月 九州大学大学院人間環境学府担当  
現在に至る。

〈所属学会〉

日本英文学会  
日本アメリカ文学会  
日本ソロー学会  
文学・環境学会

〈学会等の役職〉

日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（平成24年、25年、令和元年）  
日本英文学会『英文学研究』編集委員（平成20－22年），編集委員長（平成22年）  
日本アメリカ文学会『アメリカ文学』本部編集委員（平成30-31年）  
日本ソロー学会会長（平成29－令和元年）  
文学・環境学会副代表（平成16－19年）  
日本アメリカ文学会九州支部支部長（令和2－4年）  
日本英文学会九州支部編集委員（2008－2022（平成20－令和4年）

## 業績目録

## I. 著書

## 〈単著〉

1. 『コンコード・エレミヤ——ソローの時代のレトリック』全283頁  
東京：金星堂 2012年.
2. 『野生の文法（グラマー）——ソロー、ミュア、スナイダー』全  
214頁 福岡：九州大学出版会 2021年.

## 〈編著書〉

1. 文学・環境学会編『たのしく読めるネイチャーライティング——作  
品ガイド120』全292頁 京都：ミネルヴァ書房 2000年.（編集  
委員長）
2. 『国際シンポジウム沖縄 自然と文学のダイアローグ——都市・田  
園・野生』（山里勝己、野田研一、スコット・スロヴィックとの共  
編）全258頁 東京：彩流社 2004年. 執筆担当 pp. 63-79.
3. 『シリーズ世界の名作3 ウォールデン』（上岡克己との共編）全363  
頁 京都：ミネルヴァ書房 2006年. 執筆担当 pp. 56-66.
4. 『環大西洋の想像力——越境するアメリカン・ルネッサンス文学』（竹内  
勝徳との共編）全363頁 東京：彩流社 2013年. 執筆担当  
pp. 220-237.
5. 『ジョン・ブラウンの屍を越えて——南北戦争とその時代』（松本昇、  
君塚淳一との共編）全356頁 東京：金星堂 2016年. 執筆担当 pp.  
114-34. および「あとがき」
6. 『身体と情動——アフェクトで読むアメリカン・ルネッサンス』（竹内  
勝徳との共編）全327頁 東京：彩流社 2016年. 執筆担当 pp.  
269-87. および「あとがき」

## 〈共著〉

1. 吉野昌昭編『ロマン派の空間』「ワーズワスの『荒地』」 東京：松柏  
社 93-130頁 2000年.
2. 福岡ロレンス協会編『緑と生命の文学』第5章「ソローの耳」 東  
京：松柏社 127-154頁 2001年.

3. 伊藤詔子他編『新しいアメリカの風景』「ことばの中の風景——ソローとエマソンの詩学」東京：南雲堂 36-52頁 2003年.
4. 山里勝己編『<移動>のアメリカ文化学』第2章「アメリカン・ヒーローと進歩思想」京都：ミネルヴァ書房 45-65頁 2011年.
5. 日本ソロー学会編『ソローとアメリカ精神——米文学の源流を求めて』『『ウォールデン』における奴隷制表象——「より高い法則」をめぐって』東京：金星堂 169-184頁 2012年.
6. 西谷拓哉・成田雅彦編『アメリカン・ルネサンス——批評の新生』『『ソローとダニエル・ウェブスター——『コッド岬』のサブテキスト』東京：開文社 61-81頁 2013年.
7. Slovic, Scott, Swarnalatha Rangarajan, and Vidya Sarveswaran, eds. *Ecoambiguity, Community, and Development*. Lanham, MD: Lexington Books, 2014. “Minamata and the Symbolic Discourse of the South.” pp. 59-69.
8. 小谷耕二編『ホームランドの政治学——アメリカ文学における帰属と越境』「モールス信号の政治学——ソローと一九世紀ネイティヴィズム思想」東京：開文社 53-83頁 2019年.

## II. 学術論文

1. 「スティーブン・クレインにおける『家』からの疎外——『マギー』を中心として」*Cairn* (九州大学大学院英語学・英文学研究会) 第25号, 107-118頁, 1982年.
2. 「『白鯨』の海——その嵐と風」、*Cairn* (九州大学大学院英語学・英文学研究会) 第26号, 93-109頁, 1983年.
3. “Fire Imagery in *Moby-Dick*” *Kyushu American Literature*, no.26, 1985, pp. 89-94.
4. 「二重性の変奏——『ピエール』論」、*Cairn* (九州大学大学院英語学・英文学研究会) 第28号, 141-158頁, 1985年.
5. 「罪と祭礼——『ロジャー・メルヴィンの埋葬』をめぐって」『九州英文学研究』第5号, 41-57頁, 1988年.
6. 「大地の神話と農夫の復権——*Letters from an American Farmer* における農夫の主体性について」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学

- 研究会) 第40集, 19-34頁, 1990年.
7. 「罪の三角関係——漱石『こころ』とホーソン『ロジャー・メルヴィンの埋葬』」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会) 第43集, 89-100頁, 1993年.
  8. “Historical and Pedagogical Continuity in English Education in Japan”『日韓国際シンポジウム発表論文集』(九州大学言語文化部) 115-128頁, 1994年.
  9. 「ヘンリー・ソローと日本野鳥の会」『フォリオ a』(ふみくら書房) 第4号, 114-123頁, 1995年.
  10. 「寓意と象徴の間——ホーソンにおけるロマンスの意味について」『言語文化論究』(九州大学言語文化部) 第7号, 37-46頁, 1996年.
  11. 「屋久杉とウォールデン——高田宏におけるヘンリー・ソロー」『文学と環境』(文学・環境学会) 創刊号, 60-67頁, 1998年.
  12. “Conservation Movement and Its Literature in Japan,” *Literature of Nature: An International Sourcebook*, Ed. Patrick Murphy. Fitzroy Dearborn Publisher, 1998, pp. 290-93.
  13. 「ソローの牢獄——19世紀アメリカにおけるリベラリズムと文学」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第13号, 25-41頁, 2001年.
  14. 「自由の攻防——奴隷解放運動とコンコード」『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会) 第52集, 55-67頁, 2002年.
  15. 「ピュアであること——ソローにおける認識の行方」『言語文化論究』(九州大学大学院言語文化研究院) 第16号, 43-52頁, 2002年.
  16. “Transparency of the Emersonian Perspective: In Response to Professor Joel Myerson’s Keynote Speech,” *Proceedings of Kyoto American Seminar, July 25-July 27, 2002*. Center for American Studies, Ritsumeikan University, 2003, pp. 169-76.
  17. 「ことばの近代——石牟礼道子における風土と文学」『文学と環境』(文学・環境学会) 第6号, 30-37頁, 2003年.
  18. 「ソローにおける身体の論理」、日本ソロー学会編『新たな夜明け——「ウォールデン」出版150周年記念論集』東京：金星堂, 128-140頁, 2004年.
  19. 「奴隷解放運動と『ウォールデン』——「より高い法則」をめぐって

- て」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第55集，33－46頁，2005年。
20. “Ethics of Natural Disaster: Shozo Tanaka and Ashio Mine Poisoning.” *Tamkang Review*, no. 37 (Autumn 2006) , pp. 159-170.
  21. 「野性の詩学の系譜学——エマソンからゲーリー・スナイダーへ」『ヘンリー・ソロー研究論集』（日本ソロー学会）第34号，31－40頁，2008年。
  22. 「ソローと暴力——ジョン・ブラウン弁護の一考察」『アメリカ文学研究』（日本アメリカ文学学会）第45号，1－16頁，2009年。
  23. 「アメリカ先住民とソローの言語観」『ヘンリー・ソロー研究論集』（日本ソロー学会）第36号，53－62頁，2010。
  24. 「果てしなき宇宙——超絶主義思想と天文学」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第62集，1－18頁，2012年。
  25. “Towards a Comparative Poetics: Sakutarō’s *Tsuki ni Hoeru* and Stephen Crane’s *The Black Riders and Other Lines*.” 『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第64集，37－55頁，2014年。
  26. 「根をもつということ——ソローの文化論」『ヘンリー・ソロー研究論集』（日本ソロー学会）第41号，11－20頁，2015年。
  27. 「背後の自然——『ウォールデン』再読」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第67集，1－18頁，2017年。
  28. 「異種混交の寓話——ゲイリー・スナイダーにおける野生の詩学」『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第68集，1－13頁，2018年。
  29. “The Irony of Sin: Akutagawa’s ‘Yabu no Naka’ and Ambrose Bierce’s ‘The Moonlit Road.’” 『英語英文学論叢』（九州大学英語英文学研究会）第71集，21－41頁，2021年。
  30. “Thoreau’s Confucianist Turn in Japan.” *J19: The Journal of Nineteenth-Century Americanists*. 9.2 (Fall 2021) : 453-461.
  31. 「自然保護という思想——ソローからミュアへ」『エコクリティシズム・レビュー』（エコクリティシズム研究会）第15号，1－9頁，2022年。

### Ⅲ. 総説、書評、報告等

1. 「異文化という名の隠蔽——フリーズ射殺事件をめぐる」、『Chart Network』(数研出版)第4号, 6-9頁, 1995年.
2. 「イアン・マーシャル『グレイロック山と鯨』」、野田研一、スコット・スロヴィック編著『アメリカ文学の〈自然〉を読む』、ミネルヴァ書房, 152-83頁, 1996年. (翻訳)
3. 「ネイチャーライティング・キーワード集」『ユリイカ』青土社, 1996年3月号. (項目執筆)
4. 「自然と人間がキレるとき——石牟礼文学への一視点」『フォリオ a —ジャパニーズ・ネイチャーライティング特集』(ふみくら書房) 206-209頁, 1999年.
5. 「飯田操『川とイギリス人』」『文学と環境』(文学・環境学会)第3号, 68-69頁, 2000年. (書評)
6. 石牟礼道子『石牟礼道子対談集 魂の言葉を紡ぐ』河出書房新社, 29-49頁, 2000年. (インタビュー録、のちに『石牟礼道子全集』第16巻(藤原書店)に所収.)
7. 早瀬博範、吉崎邦子編『21世紀から見るアメリカ文学史——アメリカニズムの変容』英宝社、2002年. (分担執筆; 225-31頁, 176-77頁)
8. 「増永俊一『アレゴリー解体』」『英語青年』(研究社)9月号, 380-81頁, 2003年. (書評)
9. “Joel Myerson, ed. *Transcendentalism: A Reader*.” OUP, 2000.『英語英文学論叢』(九州大学英語英文学研究会)第53集, 95-100頁, 2003年. (書評)
10. 「入子文子『ホーソーン・「緋文字」・タペストリ』」『英文学研究』(英文号)(日本英文学会)290-97頁, 2006年. (書評)
11. “Daniel B. Botkin, *No Man’s Garden: Thoreau and a New Vision for Civilization and Nature*.”『ヘンリー・ソロー研究論集』(日本ソロー学会)第31号, 138-139頁, 2005年. (書評)
12. 高田賢一、久守和子他編『英米文学事典』、ミネルヴァ書房、2007年. (項目執筆)
13. “Yamao Sansai: An Introduction” および “Tree of My Own” ほかに6篇の英訳。Japanese Environmental Literature: Selected Works for Reading

- Workshop ASLE Japan-Korea Joint Symposium, Kanazawa, Japan, 19-21 August 2007. pp. 60-71.
14. 山里勝己『場所を生きる——ゲーリー・スナイダーの世界』, 琉球新報, 2007年1月. (書評)
  15. 「海を見るひと」『森崎和江コレクション』第1巻, 藤原書店, 2-4頁, 2008年. (月報)
  16. 「ソローの愛した子供たち——超絶主義思想と教育改革」『日本英文学会80回大会 *Proceedings*』(日本英文学会), 17-19頁, 2008年.
  17. 「コンコード・エレミヤ——ソローの時代のレトリック」『日本英文学会82回大会 *Proceedings*』(日本英文学会), 14-16頁, 2010年.
  18. 高梨良夫『エマソンの思想の形成と展開——朱子の教義との比較的考察』『アメリカ学会会報』(アメリカ学会) 177号, 5頁, 2011年. (書評)
  19. 平石貴樹『アメリカ文学史』『アメリカ文学研究』(日本アメリカ文学会) 第48号, 55-60頁, 2012年. (書評)
  20. 成田雅彦『ホーソンと孤児の時代——アメリカン・ルネッサンスの精神史をめぐる』『英文学研究』(日本英文学会) 第91号, 107-110頁, 2014年. ((書評)
  21. 日本ナサニエル・ホーソン協会九州支部研究会編『ロマンスの迷宮——ホーソンに迫る15のまなざし』『ヘンリー・ソロー研究論集』(日本ソロー学会) 第40号, 79-81頁, 2015年. (書評)
  22. Yoshio Takanashi. Emerson and Neo-Confucianism: Crossing Paths Over the Pacific.『ヘンリー・ソロー研究論集』(日本ソロー学会) 第41号, 68-71頁, 2015年. (書評)
  23. 「コハセット海岸を歩く」『命の泉を求めて』日本ソロー学会編, 東京: 金星堂, 52-53頁, 2015年.
  24. 山本晶『エマソンの「文明」論その新出邦訳「開花」に関する考察』『ヘンリー・ソロー研究論集』(日本ソロー学会) 第44号, 105-107頁, 2018年. (書評)
  25. 西尾ななえ『エマソンと社会改革運動——進化・人種・ジェンダー』『アメリカ文学研究』(日本アメリカ文学会) 第56号, 106-107頁, 2019年. (書評)
  26. 巽孝之『パラノイドの帝国——アメリカ文学精神史講義』『ヘン

リー・ソロー研究論集』（日本ソロー学会）第46号，85－88頁，2020年。（書評）

27. 吉川朗子、川津雅江『トランスアトランティック・エコロジー ロマン主義を語り直す』『アメリカ文学研究』（日本アメリカ文学会）第57号，98－102頁，2020年。（書評）

#### IV. 学会発表・招待講演

1. 「『白鯨』の海——その嵐と風」日本英文学会九州支部36回大会（九州大学）1983年10月.
2. 「大地の神話と農夫の復権——*Letters from an American Farmer* における農夫の主体性について」日本アメリカ文学会（岡山大学）1989年10月.
3. 「寓意と象徴の間——ホーソンにおけるロマンスの意味について」日本英文学会九州支部44回大会（福岡大学）1991年10月.
4. 「メルヴィルにおける父の探求」日本英文学会九州支部46回大会シンポジウム『アメリカ文学における自伝的衝動』（福岡女学院短期大学）1993年10月.
5. “Historical and Pedagogical Continuity in English Education in Japan.” 第2回日韓国際シンポジウム（九州大学）1994年10月.
6. “Nature as Discourse: Emerson’s ‘Nature.’” 九州アメリカ文学会セミナー41回大会（福岡アメリカンセンター）1995年5月.
7. “The Reemergence of Plain Living and High Thinking in Contemporary Japan.” 日米文学環境シンポジウム（東海大学ハワイ校）1996年8月.
8. 「クレヴァクルにおける場所の精神」日本英文学会九州支部48回大会シンポジウム『アメリカ文学における場所の感覚』（福岡女子大学）1996年10月.
9. 「ソローにおける身体の論理」日本ソロー学会秋期大会シンポジウム（西南女学院短期大学）1999年10月.
10. 「自由の攻防——奴隷解放運動とコンコード」九州アメリカ文学会47回大会シンポジウム『エマソンとその時代』司会・発表（福岡大学）2001年5月.
11. 「ことばの中の風景——ソローとエマソンの詩学」日本ソロー学会

- 春期大会シンポジウム『エマソン生誕二百年——コンコードの知識人たち』（酪農学園大学）、2002年5月。
12. 「石牟礼道子における文学と風土」文学・環境学会シンポジウム『アニミズムと文学』（明治学院大学）、2002年10月。（司会・発表）
  13. “Transparency of the Emersonian Perspective: In Response to Joel Myerson’s Keynote Speech.” アメリカ研究京都セミナー（立命館大学）2002年7月。
  14. 「エマソンと天文学」日本アメリカ文学会シンポジウム『アメリカン・ルネッサンス期の文学と宇宙』（椋山女学園大学）2003年10月。
  15. “Tanaka Shozo and Ashio Mine Poisoning.” The 3<sup>rd</sup> International Conference on Ecological Discourse. Tamkang University, Taiwan. May 2005.
  16. “Toxic Discourse in Red: Communist Movement and Environmental Literature in Japan.” The 6<sup>th</sup> Biennial Conference of the Association for the Study of Literature and Environment. University of Oregon. June 2005.
  17. 「マサチューセッツにおける奴隷解放思想」九州アメリカ文学会52回大会（西南学院大学）2006年5月。
  18. 「ソローにおけるジョン・ブラウン弁護の一考察」九州アメリカ文学会53回大会シンポジウム『ジョン・ブラウンの屍を越えて——南北戦争とその時代』（九州大学）2007年5月。
  19. 「野性の詩学の系譜学——エマソンからゲーリー・スナイダーへ」日本ソロー学会シンポジウム『エマソンの現代的意義』（広島経済大学）2007年10月。
  20. 「ソローの愛した子供たち——超絶主義思想と教育改革」日本英文学会80回大会（広島大学）2008年5月。
  21. 「ホーソンとニューイングランドの作家達」日本ホーソン協会支部大会（福岡大学）2009年3月。
  22. 「自己の詩学——ソローにおけるエゴイズムの諸相」九州アメリカ文学会55回大会（鹿児島大学）2009年5月。
  23. 「アメリカ先住民とソローの言語観」日本ソロー学会シンポジウム『ソローとアメリカ先住民』（立正大学）、2009年10月。
  24. 「コンコード・エレミヤ——ソローの時代のレトリック」日本英文学会82回大会（神戸大学）2010年5月。
  25. 「オールド・マンズとコンコード言説」日本ナサニエル・ホーソー

- ン協会第30回全国大会シンポジウム『アメリカン・ルネッサンス研究の新潮流』（西日本総合展示場）2011年5月。
26. 「デラーノ船長のマサチューセッツ：“Benito Cereno”と奴隷解放論」日本アメリカ文学会第48回全国大会（関西大学）2011年10月。
  27. 「殉教のレトリック——コンコード、プリマス、ハーパーズ・フェリー」九州アメリカ文学会第58回大会（熊本大学）2012年5月。
  28. 「野性の文化論」比較文明学会九州支部大会（香蘭女子短期大学）2012年7月。
  29. 「事故と座礁の物語——アメリカン・ルネッサンス文学における悲劇性」九州アメリカ文学会第59回大会（県立長崎シーボルト大学）2013年5月。
  30. 「根をもつということ——ソローの文化論」日本ソロー学会（北星学園大学）2014年10月。
  31. “Beyond Duality: Thoreau’s Redefinition of Self-Culture.” International Symposium on Literature and Environment in East Asia. Meio University. November 22, 2014.
  32. 「背後の自然——『ウォールデン』再読」（招待講演）九英会（九州大学文学部）、2015年2月。
  33. “The Poetics of the Wild: From Thoreau to Gary Snyder.” Hunan University, China. November 12-15, 2015.（招待発表）
  34. 「エマソンの書き換え——弔辞「ソロー」における思想の訣別」九州アメリカ文学会（九州大学）2016年5月。
  35. 「野生の文化論——ソローからレヴィ＝ストロースへ」（招待発表）日本英文学会九州支部大会（中村学園大学）2016年10月。
  36. 「モールス信号の政治学——ソローと19世紀ネイティヴィズム思想」（招待発表）日本英文学会全国大会（安田女子大学）2019年5月。
  37. 「『苦海浄土』における「棒踊り」と南九州の風土」シンポジウム『九州大学と水俣』九州大学人間環境学府「遊びと洗練」（オンライン）2021年7月。
  38. 「自然保護という思想——ソローからジョン・ミューアへ」エコクリティシズム学会（SES-J）（オンライン）2021年8月。（招待講演）
  39. 「ホーソン文学の魅力」北九州アメリカ文学会、2021年11月13日（招待講演）

40. 「ホーソンにおける「暗黒」の系譜学」福岡大学大学院人文科学研究科英語学英米文学専攻主催講演会（オンライン）2022年1月。（招待講演）
41. 「陰謀論とアメリカのヴィジョン——サミュエル・モースとソローの共鳴」日本ナサニエル・ホーソン協会全国大会シンポジウム『アメリカン・ルネサンスと白人至上主義の構築』（オンライン）2022年5月。（招聘パネリスト）
42. 「ホーソンとその岩」日本アメリカ文学会（専修大学）2022年10月。
43. 「難破船の詩学——マサチューセッツのメルヴィル」九英会（九州大学文学部）2023年2月。（招待講演）

## V. その他

### （1）科学研究費等による研究調査

1. 「南北戦争前における奴隷解放運動とコンコードの文学」平成15年—17年科学研究費補助金基盤研究（C），課題番号15520188，研究代表者。
2. ジョン・ブラウンの屍を越えて：南北戦争とその時代」平成18年—21年科学研究費補助金基盤（B），課題番号16520171，研究分担者。
3. 「ヘンリー・ソローにおける野性の詩学の研究」平成18年—21年科学研究費補助金基盤（C），課題番号18520214，研究代表者。
4. 「大西洋交易の変容とアメリカン・ルネッサンス文学」平成22年4月—24年科学研究費補助金（B），課題番号22320058，研究分担者。
5. 「ソローの愛した子供たち—超絶主義思想と教育改革」平成21年—24年科学研究費補助金基盤（C），課題番号21520262，研究代表者。
6. 「アメリカン・ルネッサンス文学における情動と身体—アフェクト理論とその応用」平成25年—28年科学研究費補助金（B），課題番号25284054，研究分担者。
7. 「コンコード・エレミヤソローの時代のレトリック」平成24年—27年科学研究費補助金基盤（C），課題番号24520294，研究代表者。
8. 「座礁の文化史—アメリカン・ルネッサンス文学と海難事故」平成27年—30年科学研究費補助金基盤（C），課題番号15K02341，研究代表者。

9. 「ホームランドの政治学—アメリカ文学における帰属と越境」平成30年—令和元年科学研究費補助金 (B), 課題番号16H03395, 研究分担者.
10. 「モールス信号の政治学—ヘンリー・ソローと19世紀ネイティブイデオロギズム思想」令和元年—4年科学研究費補助金基盤 (C), 課題番号19K00359, 研究代表者.
11. 「足尾から水俣へ—石牟礼道子における近代の構図」令和4年—7年科学研究費補助金基盤挑戦的研究 (萌芽), 課題番号22K18471, 研究代表者.

## (2) 学内補助金による調査研究

1. 平成19—20年九州大学研究プログラム・研究拠点 (P&P) 「生命倫理を「主題とする内容重視の言語指導教材・プログラム開発」課題番号19201, 研究分担者.
2. 平成22年九州大学教育の質向上プロジェクト (EEP) 『多言語プレゼンテーションハンドブック』(英語セクション担当), 研究分担者.